



～魅惑のアイテム、大田区に大集合～

勾玉

MAGATAMA

勾玉は大田区内の遺跡からも出土しており、その独特な形から多くの人々を魅了しています。勾玉の歴史は古く、今から約7,000年前の縄文時代に誕生しました。いまだ数々の謎が残る勾玉から、古代のロマンを感じてみませんか。

まがたま 勾玉ってなに？

A. 簡単に言うと、曲がった玉のことです。「古事記」などに登場する言葉で、三種の神器(鏡・剣・玉)の一つとして、重視されてきました。



宝萊山古墳のヒスイ製勾玉(郷土博物館所蔵)

どうやって 使われていたの？

A. 先端にはひもを通すための孔があけられており、アクセサリーのほか、呪いの道具や権力を示すアイテムとしての役割も考えられます。時代や地域、石材に応じて使い分けられていたようです。



大田区で 勾玉が出土したのは どんなところ？

A. 貴重なヒスイ製勾玉が4点出土した宝萊山古墳は、全長が約100mあり、都内有数の規模を誇る古墳で、地域を治めた首長が埋葬されていました。4点の勾玉は首長が身に付けていたものかもしれません。



多摩川台公園内には、ほかにも多摩川台2号墳で滑石製勾玉1点、多摩川台5号墳で瑪瑙製勾玉が4点出土しています。

郷土博物館
さいとう 齋藤あや 学芸員

大勾玉展

-宝萊山古墳、東京都史跡指定70周年-

日時

8月2日(火)～10月16日(日)

午前9時～午後5時(月曜休館。9月19日、10月10日は開館)

観覧料

大人 200円

子ども 100円

宝萊山古墳の東京都史跡指定70周年を記念し、勾玉に焦点を当てた特別展を郷土博物館で行います。特別展では、区内で出土した勾玉のルーツに迫るため、全国から勾玉を約1,500点集めました。縄文時代の最古級の勾玉から、弥生・古墳時代の勾玉など、テーマに沿って勾玉の歴史をひも解きます。研究史上重要な勾玉や、本邦初公開となる勾玉も展示します。

詳細は
コチラ

オリジナルの勾玉カード全12種類の中から、1人1枚プレゼント!なくなり次第、終了します。(各種200枚)



縄文時代の勾玉

(青森県上尾駮(1)遺跡出土)

この時代はまだ勾玉の形が完成されておらず、個性豊かな勾玉がみられます。

青森県埋蔵文化財調査センター所蔵



弥生時代のガラス製勾玉

(京都府左坂G支群24-1号墓出土)

当時は日本列島にガラスを作る技術はなく、海外から輸入した小玉を加工していました。

京丹後市教育委員会所蔵



古墳時代の子持勾玉

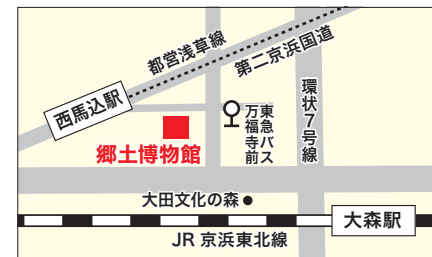
(兵庫県馬場17号墳出土)

表面に複数の小さな突起状の勾玉が付いた勾玉。用途は諸説あり、謎に包まれています。

朝来市教育委員会所蔵

会場：郷土博物館

▶所在地 南馬込5-11-13

バス停「万福寺前」下車徒歩2分
都営地下鉄浅草線「西馬込駅」から徒歩7分詳細は
コチラ